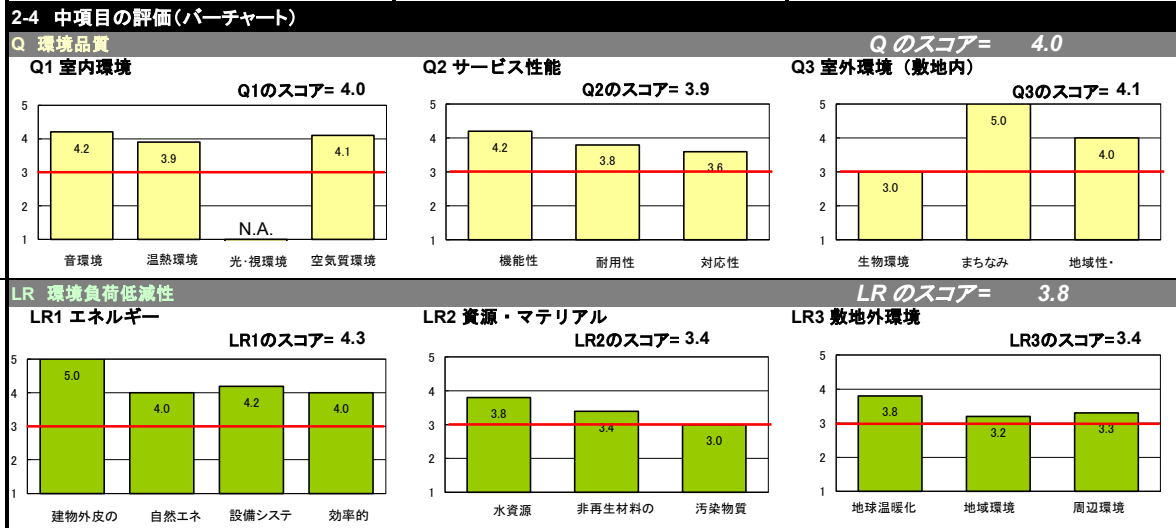
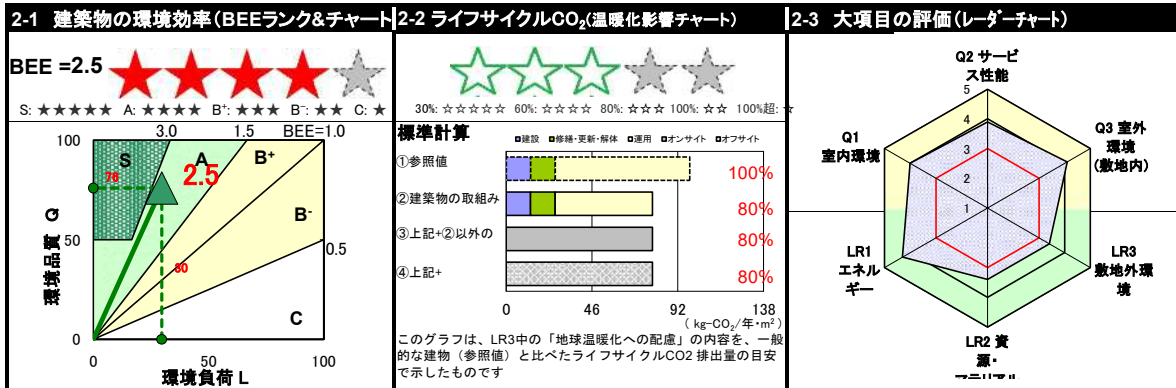


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三河安城交流拠点建設計画	階数	地上4階
建設地	愛知県安城市三河安城町1丁目11番地2	構造	SRC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	5,879 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年11月20日
敷地面積	30,339 m ²	評価の実施日	2025年11月20日
建築面積	7,606 m ²	作成者	落合奈津子
延床面積	15,467 m ²	確認日	2025年11月20日
		確認者	落合奈津子



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>24.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.5</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>外壁サイディング</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>外構の舗装材</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)三河安城交流拠点建設計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		教自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
		<p>Q 建築物の環境品質 4.0</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>1 音環境 4.0</p> <p>1.1 室内騒音レベル 4.2</p> <p>1.1 室内騒音レベル 3.0 3.0 0.40 3.0 - - 4.2</p> <p>1.2 遮音 5.0</p> <p>1 開口部遮音性能 T-2 5.0 1.00 3.0 - - -</p> <p>2 界壁遮音性能 - - - 3.0 - - -</p> <p>3 界床遮音性能(軽量衝撃源) - - - 3.0 - - -</p> <p>4 界床遮音性能(重量衝撃源) - - - 3.0 - - -</p> <p>1.3 吸音 5.0</p> <p>1.3 吸音 - 5.0 0.20 3.0 - - -</p> <p>壁・床・天井の三面に吸音材あり</p> <p>2 温熱環境 3.9</p> <p>2.1 室温制御 3.7</p> <p>1 室温 0.5 3.7 0.50 - - - -</p> <p>2 外皮性能 3.0 3.0 0.38 3.0 - - -</p> <p>3 ゾーン別制御性 3.0 3.0 0.25 3.0 - - -</p> <p>管理諸室は室別にPACで細かくゾーニング</p> <p>2.2 湿度制御 3.0</p> <p>2.2 湿度制御 3.0 3.0 0.20 3.0 - - -</p> <p>2.3 空調方式 5.0</p> <p>2.3 空調方式 3.0 5.0 0.30 3.0 - - -</p> <p>気流が1階に到達するように計画し、負荷に応じて風量を調節可能</p> <p>3 光・視環境 -</p> <p>3.1 屋光利用 -</p> <p>1 屋光率 3.0 - - - - - -</p> <p>2 方位別開口 - - - 3.0 - - -</p> <p>3 屋光利用設備 3.0 - - 3.0 - - -</p> <p>3.2 グレア対策 3.0</p> <p>1 屋光制御 5.0 3.0 - 3.0 - - -</p> <p>3.3 照度 3.0</p> <p>3.3 照度 3.0 - - 3.0 - - -</p> <p>3.4 照明制御 3.0</p> <p>3.4 照明制御 3.0 - - 3.0 - - -</p> <p>4 空気質環境 4.1</p> <p>4.1 発生源対策 4.0</p> <p>1 化学汚染物質 0.5 4.0 0.50 - - - -</p> <p>全的にF☆☆☆☆</p> <p>4.2 換気 4.5</p> <p>1 換気量 0.3 4.5 0.30 - - - -</p> <p>2 自然換気性能 3.0 4.0 0.50 3.0 - - -</p> <p>3 取り入れ外気への配慮 3.0 - - 3.0 - - -</p> <p>30m³/h人 屋上において、OAと厨房EA、トイレEAは十分に離隔距離あり</p> <p>4.3 運用管理 4.0</p> <p>1 CO₂の監視 0.2 4.0 0.20 - - - -</p> <p>2 喫煙の制御 3.0 5.0 0.50 - - - -</p> <p>アリーナの空調機にCO₂制御</p> <p>Q2 サービス性能 3.9</p> <p>1 機能性 4.2</p> <p>1.1 機能性・使いやすさ 4.2</p> <p>1 広さ・収納性 0.4 3.0 0.40 - - - -</p> <p>2 高度情報通信設備対応 3.0 3.0 - - - - -</p> <p>3 バリアフリー計画 3.0 3.0 1.00 - - - -</p> <p>1.2 心理性・快適性 5.0</p> <p>1 広さ感・景観(天井高) 0.3 5.0 0.30 - - - -</p> <p>2 リフレッシュスペース 3.0 - - 3.0 - - -</p> <p>3 内装計画 3.0 3.0 - - - - -</p> <p>建物全体のコンセプト、明確な機能と具体的な取組、照明と内装の一帯計画、インテリアベース</p> <p>1.3 維持管理 5.0</p> <p>1 維持管理に配慮した設計 0.3 5.0 0.30 - - - -</p> <p>2 維持管理用機能の確保 3.0 5.0 0.50 - - - -</p> <p>10点 11点</p> <p>2 耐用性・信頼性 3.8</p> <p>2.1 耐震・免震・制震・制振 3.8</p> <p>1 耐震性(建物のこわれにくさ) 0.3 3.8 0.31 - - - -</p> <p>2 免震・制震・制振性能 0.4 3.8 0.48 - - - -</p> <p>建築基準法の25%増の耐震性を有する</p> <p>2.2 部品・部材の耐用年数 3.8</p> <p>1 躯体材料の耐用年数 0.3 3.8 0.33 - - - -</p> <p>2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 - 3.0 0.23 - - - -</p> <p>3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 - 5.0 0.23 - - - -</p> <p>4 空調換気ダクトの更新必要間隔 - 5.0 0.09 - - - -</p> <p>5 空調・給排水配管の更新必要間隔 - 5.0 0.08 - - - -</p> <p>6 主要設備機器の更新必要間隔 - 5.0 0.15 - - - -</p> <p>給湯配管(C)、給水(屋内50A以下)(B)、通気管(A)</p> <p>2.4 信頼性 4.0</p> <p>1 空調・換気設備 0.1 4.0 0.19 - - - -</p> <p>2 給排水・衛生設備 3.0 5.0 0.20 - - - -</p> <p>3 電気設備 3.0 5.0 0.20 - - - -</p> <p>4 機械・配管支持方法 3.0 3.0 0.20 - - - -</p> <p>5 通信・情報設備 3.0 4.0 0.20 - - - -</p> <p>重要機器については耐震クラスS、一次滞在エリアの関連設備はA</p>									

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				3.0	-		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.12	3.0	4.0	1.00		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.7	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		② 天井に設備レール		5.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性		ケーブルラック方式	3.0	5.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性		ケーブルラック方式	3.0	5.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		5.0	0.40		-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	4.0	0.30		-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		5.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		外構の舗装材,コミュニティ利用,屋外コンコース,防犯カメラ,市民ワークショップ		3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.8
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.55	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		アリーナの自然換気	3.0	4.0	0.20		-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.74	3.0	4.2	0.30		-	-	4.2
4 効率的運用			0.2	4.0	0.20		-	-	4.0
集合住宅以外の評価			1.0	4.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング		BEMS導入	3.0	5.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.8	0.15		-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓,節水便器	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.6	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用あり,利用率は20%以下	3.0	4.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63		-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 基礎砕石		5.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		根羽村材を50%以上に使用	3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自 設備レール,独自)仕上げ材に自然素材を用いている,木材利用	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率80%		3.8	0.33		-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	4.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自 駐輪場1P,駐車場3P		5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		全て対応予定		5.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.3	0.33		-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自		3.0	0.50		-	-	
2 振動		独自		3.0	0.50		-	-	
3 悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	4.7	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明・屋外広告ともに対策あり		5.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		外壁は反射率の低い材料		4.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいも版手引き

(仮称)三河安城交流拠点建設計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:24.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	4.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	外壁サイディング
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	外構の舗装材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)三河安城交流拠点建設計画

計画上の配慮事項	
総合	SDGs・脱炭素・地方創生を実現する「成長型」多目的施設を総合コンセプトとして掲げ、1.地域密着・地域貢献／2.収益向上／3.コスト合理性／4.将来拡張性・持続性／5.多目的利用の5つのコンセプトに基づいて具体的な施設計画を実施している。
Q1 室内環境	アリーナでは展示会やスポーツの運営内容に合わせた利用が可能となるように、スポーツの試合時の発生音量を許容する遮音性能となるように、遮音性の高い材料や吸音材を各所に設置している。空調においては、アリーナは天井の高い大空間であるため、気流が1階に到達するように計画し、負荷に応じて風量を調節可能な方式としている。
Q2 サービス性能	災害時に帰宅困難者が一時的に滞在できるように、非常用発電機の設置や、エリアを絞って運転可能な空調・換気計画を行っている。また、ガス・電気 の二重熱源としており、レジリエンス性を高めている。天井に設備レールを全面的に設置することで、設備配管・配線の維持管理・更新が容易な計画となっている。
Q3 室外環境(敷地内)	建物には、あいち認証材に登録されている外壁サイディング材や、地域産の材料を外構材に利用している。外構には市民が憩うことのできる植栽(日陰)や芝生広場、スポーツイベントやキッチンカーが配置可能なレイアウトを計画している。加えて、設計段階から計画に関する市民とのワークショップを行っている。
LR1 エネルギー	建物外皮は、BPI=0.55と非常に性能が高い外皮となっている。また、BEMSを導入しており、運用時のエネルギー削減に取り組む予定である。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具は節水型器具としており、雨水利用を行うことで節水に配慮している。持続可能な森林から算出された木材として、施設の大屋根や外装、マルチユニット等に長野県根羽村など近隣地域の木材を採用している。
LR3 敷地外環境	交通負荷抑制のため、車両の出入りに配慮し、敷地内に十分な量の駐車場・駐輪場を計画している。また、建物を敷地中央に据えることで周辺建物との十分な離隔を確保すると共に、外壁には周囲への反射が低減される材料を用いている。高効率照明の採用や細かく点滅区分をわけることで、光害に配慮した外構照明計画としている。
その他	